

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	嬉野市立大草野小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携で児童生徒の学び方(学習スタイル)をつなぎ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりに努める。 ・特別支援教育に対する意識が高まっており、個に応じた支援の在り方や効果的な学級経営の方策を探り、特別支援教育の充実を図る。 ・コロナ感染防止対策を含む危機管理体制及び安全対策の強化を図る必要がある。
2 学校教育目標	笑顔いっぱい、生き生きと学び合うまっ子の育成
3 本年度の重点目標	① 学び続ける子どもの育成 (1) 学習意欲を喚起する手立ての工夫 (2) 思考力・表現力の育成 (3) 読書教育の充実 (4) 望ましい学習習慣と学習態度の育成) ② 思いやりのある子どもの育成 (1) 当たり前のことが当たり前にできる指導の徹底 (2) 思いやりの心の育成 (3) 自主的・自発的な態度の伸長 (4) 特別支援教育の充実) ③ たくましい子どもの育成 (1) 体育科学習の充実 (2) 外遊びの奨励 (3) 健康的な生活の習慣化 (4) 食育の推進 (5) 危機回避能力の向上)

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教員90%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の進捗状況を確認し促進を図る。	B	・マイプランの成果指標を達成できたと自己申告する教師は83%。	A	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成できたと自己申告する教師は100%。	A	・成果指標の100%達成は大いに評価できる。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○児童の活用力を育む授業づくりを目指し、全職員が授業研究会を1回以上行う。 ○授業の終末、自身の学びを振り返ることができる児童95%以上	・算数科の授業を中心に、全職員が研究授業を行い、相互参観と授業研究会を実施する。 ・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、授業の終末に振り返りの活動を設定する。	B	・9月末までに、3学年及び支援学級の授業研究会を実施した。各クラス振り返りの実践交流を通して、学力向上に対する課題を共有することができた。また、児童の実態に応じた放課後補充学習など細やかな個別指導は概ねできている。 ・算数の学習の振り返りの時間を確保し、90%以上が書くことができている。	A	・12月末までに、支援学級を含む全学級で研究授業を実施し、12月には小中連携学力向上研究発表会を行った。各学年で人権や平和に関する課題を共有し、授業力向上に向けた取組の結果、学力調査では前学年を上回る結果であった。 ・振り返りポイントを使って振り返り活動の充実に向けた指導を行ったことで、児童の95%以上が自身の学びを振り返ることができた。	A	・今後も子供たちの主体的な学びや学習内容の定着に向けて分かりやすい授業の実践を継続してもらいたい。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○年3回以上の集会活動や体験活動を実施する。	・ふれあい道徳(授業公開)を年1回実施する。 ・人権集会や平和集会を行い、人権・同和教育や平和教育の推進を図る。 ・コミュニティと連携し、体験活動を充実させる。	B	・ふれあい道徳(授業公開)を6月8日に実施した。保護者の参観率は81%であった。 ・平和集会を行い、各学年で平和に関する標語を作ったり、平和を願う歌を取ったり、読み聞かせをしたりして、人権や平和についての意識を高めた。	B	・人権集会を行い、各学年に応じて人権や平和の大切さについて学習した。各学年で人権について考え「ありがとうの木」を作成することにより、思いやりの気持ちを育て、人権・同和教育に関する意識を高めた。	A	・人権集会や「ありがとうの木」などの手立てが充実していると思われる。 ・感染対策を講じて体験活動が行われているのでA評価でよいと考える。 ・地域コミュニティとの連携により今後もより一層の郷土愛を育んでもらいたい。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等の取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・気になる子の連絡会を中心に、問題行動やいじめ等について共通認識・共通理解のもと組織的に対応にあたる。 ・QU結果の分析活用やいじめの対応についての研修・会議を実施する。	B	・日々の子どもの様子の情報交換からいじめ問題を察知し、担任を中心に対処できた。このことをきっかけにSCに相談連携し、実態に応じた心の授業を実施した。 ・「QUテスト」の結果分析を行い、その後の学級の児童支援や学級経営に生かした。	B	・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員92%。 ・5月、9月にいじめの対応について校内研修を行い、対応を確認することができた。 ・8月と1月にQUの結果分析・研修を行い、その後の学級の児童支援や学級経営に生かした。	B	・成果指標を上回っているためA評価でよい。いじめは、日常的に全ての活動において起こり得る。2回のQUによる意識啓発もたいへん効果的である。 ・いじめ防止等について組織的対応ができている教員が100%と回答できるように取り組んでもらいたい。 ・子供どうしの自己解決力の育成も重要な課題だと思う。	・生徒指導主事 ・教育相談担当者
	○児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)90%以上	・児童の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施 ・学習や体験活動で、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	B	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童90% ・振り返りの活動を十分に確保できたとは言えない。今後、活動の目的と関連させた活動による学びを深めさせる必要がある。	A	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童90% ・授業研究会を8回実施し、教員の指導方法の改善に係る共通理解を図ることができた。 ・振り返りは日常化し、新たな活動への意欲を示す児童が増加した。	A	・振り返りが日常化し、新たな活動への意欲を感じられるような取組が行われていると感じた。	・教務主任 ・各教科主任
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○学校栄養職員による栄養教育を全学年で行い、正しい食習慣を身につけさせる。 ○朝食をとって登校する児童95%以上	・学校栄養士による食育の授業や給食だより、健康委員会の発表等を通して、食の大切さを知らせる。 ・毎週行っている衛生検査の中で、朝食の欠食率を確認し、保護者と連携を取りながら指導を行う。	A	・食育の授業は3学年で予定通り実施している。 ・健康委員会の放送で、食に対する意識を高めることができた。 ・衛生検査の結果、ほぼ100%の児童が朝食を食べ学校に来ていることを確認できた。	A	・朝食をとって登校する児童100% ・保健だよりを毎月発行し、望ましい食習慣について5回触れた。 ・給食の残量が減り、ほとんどのクラスで完食できるようになった。 ・学校栄養職員による栄養教育(食育授業)を3学年で実施	A	・朝食をとって登校する児童100%という結果は本当にすばらしい。今後も食の大切さを伝えてもらいたい。 ・成果指標の100%達成は大いに評価できる。	・体育主任 ・食育推進担当者
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・定時退勤日、定時退勤推進日の徹底 ・学校閉庁日の設定 ・パソコン校内LANや共有フォルダの活用	B	・全職員の時間外勤務時間の平均32時間 ・定時退勤推進日は概ね達成できている。 ・夏季休業中に5日間、学校閉庁日を設定し、教職員が休暇を取得しやすい環境を整備した。	B	・全職員の時間外勤務時間の平均32時間 ・定時退勤推進日は概ね達成できている。 ・冬季休業中は、教職員が休暇を取得しやすい環境を整備した。	B	・月平均32時間ならA評価でよいと考える。 ・時間外勤務時間の平均32時間は中間評価と同じである。(減少していない) ・コロナ感染対策等で本来の業務以外の時間外勤務があるなら、マンパワーの増を考慮すべき。 ・職員の時間外勤務時間を極力減らす施策を行ってもらいたい。職員自らの心と体の健康がまずは第一だと思う。	・管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○校内研修を通して、特別支援に関する専門性が向上した教員90%以上	・専門機関と連携して職員研修を行う。 ・小中学校と連携して中学への進学をスムーズにする。 ・個別の支援計画を作成し、個に応じた指導支援を行う。 ・ケース会議を行い、共通理解を図る。	A	・専門機関と連携し講師を招聘して職員研修を行った。 ・中学校進学に向けて中学校見学会に行き、スムーズに進学できるように取り組んだ。 ・毎週支援を要する児童について情報交換をし、共通理解して支援を行った。 ・必要に応じてケース会議を開き共通理解を図った。	A	・特別支援に関する専門性が向上した教員92% ・研修会3回実施 ・ケース会議7回実施 ・毎週支援を要する児童について情報交換をし、有効な手立てを共有して、個別支援の充実を図ることができた。	A	・特別支援教育についての研修に努められていると感じた。 ・ベテランから若手へのスキルの継承が課題。	
○安全対策	○危機回避能力の向上 ○危機管理及び安全対策の強化	○防犯ブザー所持率100%。自転車のヘルメット着用率100%。 ○危険状況や安全対策に対する理解を深め、緊急の場合自分はどうしたらよいかわかる児童90%以上	・防犯ブザー所持点検を毎月行い、自転車については保護者への啓発や交通安全教室等を実施して徹底を図る。 ・避難訓練、学級活動等に危険予知について具体的に指導する。 ・PTA、交通指導員、見守り隊と連携を図る。	A	・防犯ブザー点検は毎月行い、所持率100%になるよう徹底している。 ・交通安全教室は予定通り実施することができた。 ・避難訓練を予定通り実施し、防災意識を高めることができた。 ・校内の安全点検を毎月実施している。	A	・防犯ブザー所持率100%、自転車のヘルメット着用率100%維持継続 ・避難訓練を予定通り実施し、防災意識を高めることができた。休み時間の避難場所や避難方法についても学級指導を通して徹底できた。 ・校内の安全点検を毎月実施し、改善に努めた。	A	・成果指標の100%達成は大いに評価できる。 ・自転車のヘルメット着用率100%とあるが、着用せずに乗っている子を見かけ、声をかけたことがある。	・安全担当者 ・生徒指導主事

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・学校としての指導方法をそろえ、児童が「わかる・できる」を実感し、学ぶ意欲を高める授業づくりに継続して取り組む。 ・豊かな心を育む児童支援の在り方や効果的な学級経営・学級づくりの方策を探り、いじめの早期発見、早期対応体制の充実や組織的対応の充実を図る。 ・教員集団の協働性や情報の共有化等環境の整備を図りながら、業務効率化の推進に努める。
----------------	---